

境町歴史民俗資料館だより 第6号

平成29年2月15日発行

境町歴史民俗資料館	
〒306-0431	茨城県猿島郡境町大字西泉田1326-1
電話番号	0280-81-3353 FAX 0280-81-3354
開館時間	通常 9:00～16:30
休館日	毎週月曜/祝日/年末年始

～達磨寺の歴史と達磨市～



多くの人で賑わう第24回境達磨市（平成29年1月）

「達磨」の由来は、達磨大師の長年の修行の成果にあります。達磨大師は、中国の南北朝時代に、中国華南の広州に渡って禅宗を伝え、梁（中国南朝）の武帝と問答を交わし、少林寺において面壁（めんぺき）9年の座禅を全うし、門弟たちには法（ダルマ＝守るべき社会倫理）を伝えています。達磨大師の面壁9年間の修行をしている坐像を象った人形が「達磨」なのです。

現在の群馬県高崎市鼻高町に禅寺として元禄10年（1697）に創建された少林山達磨寺は、明治維新後には禅の曹洞宗から黄檗宗に改宗し、星祭の祈禱寺院としても知られ、毎年正月の6・7日には目無し達磨市が開かれています。

達磨市の発祥は、江戸時代後期になって、高崎市の少林山達磨寺付近の農家で農業の副業として張り子の目無し達磨を作って、1月7日の少林山達磨寺の縁日に近隣の達磨市に出すようになったことと伝えられています。「達磨」を買った者は養蚕倍盛・商売繁盛の縁起を担ぎ、神棚に安置して片目を入れ、念願成就の際にはもう片目を入れ、翌年の達磨と交代に古い達磨は焼却したり、川に流しました。こうして、人々に幸運を招く福達磨を売る達磨市は、達磨が転んでも起きる縁起物として、中部・関東地方から東北の三陸地方の神社で、正月から3月にかけて張り子の達磨を売る市が開かれるようになり、達磨は開運厄除け、養蚕の繁栄、大漁祈願で家の神棚に安置されました。

こうしたことから、江戸に繋がる河岸町・宿場町として繁栄した歴史を誇る境町では、かつて町の伝統行事として継承されて賑わった晦日市や二日市を再現し、町の活性化を図るために、平成6年（1994）から正月に達磨市が再開され、たくさんの人で賑わっています。